

韓国・京畿道（キョンギド）派遣職員からのレポート 最終回 ～韓国での1年間を振り返って～

皆さんこんにちは。早いもので、私が昨年4月に韓国へ来て、もうすぐ1年が経とうとしています。冬の寒さが厳しかった韓国でも少しずつ暖かくなってきており、春が近づいていると感じます。

思えば、日本にいた時は辛い食べ物が苦手でしたが、韓国での生活のおかげで辛い食べ物が大好きになりました。今では食事の際にキムチがないと物足りなく感じてしまうほどです。また、業務での出張や休日に地方へ出かけた際に、水原へ帰ってきたときはまるで地元に戻ってきたような感覚になります。すっかり韓国の生活に馴染んできたところですが、いよいよ帰国の日が近づいてまいりましたので、これまでお送りしてきた私のレポートも、ついに今回が最後となります。

今回のレポートでは、京畿道派遣職員として1年間の韓国生活を送った中で経験した様々な研修内容や行事等について、これまでのレポートではお伝えできなかった出来事も含め、いくつか振り返りながらご紹介させていただきたいと思います。

2018年4月

4/27 この日は、11年ぶりの開催となる南北首脳会談が開催された日でした。私が勤務している京畿道庁外交通商課の事務室内で、課の職員の方々と一緒に生中継で放送された会談の様子を視聴しました。

韓国の文在寅大統領と、北朝鮮の金正恩委員長が板門店（パンムンジョム）の軍事境界線上で対面して握手をした瞬間には、課の皆さんが興奮して大きな拍手をしていました。朝鮮半島で起きている歴史的な瞬間を、韓国の地で見る事ができたことに、とても不思議で感慨深い気持ちになりました。

この日の南北首脳会談をきっかけとして、その後、5月、9月に渡る南北首脳会談、また、6月、2月に米朝首脳会談が開催される流れとなりました。



2018年 5月



5/1 体育大会

京畿道庁内の全部署が各部署ごとに日程を決めて必ず行う行事。内容についても各部署ごとに自由に決めていいそうです。私の所属する外交通商課は、庁舎の近くに位置する世界遺産の水原華城の周辺を散策しました。

←水原華城の城壁の前で記念撮影

5/20 京畿道の北部に位置し、北朝鮮との非武装地帯（DMZ）に接する坡州市（パジュ）の臨津閣（イムジンガク）平和ヌリ公園を訪問しました。ここは軍事境界線から南へ約7kmの場所にある大規模な公園となっており、一般の方が自力で行くことができる北朝鮮に最も近い場所です。朝鮮戦争の戦跡や統一を祈る記念碑、展望台等があります。戦争の現実や平和の大切さを考えさせられる場所ですが、休日には多くの観光客や家族連れの人達で賑わう坡州を代表する行楽地となっています。



↑展望台（写真中央）からは、軍事境界線付近の景色を見渡すことができます。また、右の写真に写っているのは、望拝壇（マンベダン）といって、北朝鮮に故郷を持つ離散家族の方々が、正月やお盆の時期に、北朝鮮にいる両親や祖父母に拝礼する場所だそうです。



↑戦争中に爆撃を受けた蒸気機関車が展示されています。（写真左・中央）

列車の車体には無数の銃弾の跡が残されており、当時の戦闘の激しさが伝わってきます。

また、右の写真に写っているのは、自由の橋と呼ばれる場所で取り付けられていた垂れ幕です。垂れ幕には、「南北首脳会談大歓迎 私達は1つだ」という意味のメッセージがハンゲルで書かれていました。南北の平和を願う人々の気持ちが伝わってきました。

2018年6～8月

韓国語研修の一環として、水原市内にある亜洲（アジュ）大学校の語学堂（※大学付属の語学学校。春、夏、秋、冬の4学期があります。）の夏学期の授業を体験しました。



↑ 亜洲大学校は1973年に設立された水原市内にある私立大学です。ちなみに徒歩10分ほどの距離には、2002年に開催された日韓ワールドカップの会場になった水原ワールドカップ競技場があります。亜洲大学校のキャンパス風景。（写真左・中央）

また右の写真は、隣接している亜洲大学校病院です。水原市内で一番規模の大きい総合病院とのこと。※なお、この大学病院は、2017年の11月に北朝鮮軍から銃撃を負いながら軍事境界線を越えて脱北した兵士が入院、手術を受けた病院として一時期話題となっていました。



↑ 6月

韓国語で自己紹介をする授業では、神奈川県と京畿道の友好交流について発表を行いました。

↑ 7月

課外授業にてソウル特別市内の弘大(ホンデ)で開催された公演を鑑賞しました。

↑ 8月 修了式

意外だったことは、私のクラスは全16名中12名がベトナム人留学生であり、他のクラスを見てもベトナム人留学生が大半を占めていました。ベトナムには、韓国を代表する大企業である三星（サムスン）電子の工場があります。私のクラスにいたベトナム人留学生の中には、韓国語を勉強して、将来はサムスンで働きたいという学生もいました。

近年、日本ではベトナム人留学生や技能実習生の数が急増していますが、同じく韓国でもベトナムの存在感が増している様子が分かりました。亜洲大学校では、ベトナムをはじめ、様々な国からきている留学生達と韓国語を通じて交流することができ、自身の韓国生活において、とても新鮮で刺激を受けた貴重な国際交流の機会となりました。

2018年10月

10/5 京畿道広州市（クァンジュ）内にある**탄벌중학교**（タンボル中学校）で、日本語の授業に参加しました。



1993年度に京畿道から神奈川県へ2代目の交流職員として派遣されたことのあるキム・ハンソプさんは、現在、故郷の広州市にある上記の中学校で、週に一度、ボランティアで日本語の課外授業を担当しているとのことで、キム・ハンソプさんから、ぜひ一緒に授業に出てほしいとお誘いをいただき、授業に参加させていただきました。

私からは、自己紹介及び神奈川県と京畿道の交流等について、日本語で挨拶をさせていただきました。

授業の最後に質問タイムがあり、生徒達から、お勧めの日本食や旅行先の話から、日本人は韓国人のことをどう思っているのかなど、様々な質問がありました。また、私の方からも、なぜ日本語を勉強をしているのかと生徒達に質問をすると、日本のアニメや漫画が好きだからという答えが多かったですが、中には、韓国内での大学進学や就職がとても厳しくなっている状況から、日本語を身につけて、日本で留学、就職を考えているという答えもありました。

日本でも、今は音楽やドラマ等をきっかけに、韓国に関心を持つ学生が多いですが、韓国でも同じくらい、学生達が日本に大きく関心を持っていることを実感しました。日韓の若い世代が、お互いの国について関心を持ち、交流していくことが、これからの日韓関係を大きく発展させていくためにとても重要なことだと思いました。

10/13 在大韓民国日本国大使館等が毎年主催している「日韓交流スピーチ大会」に出場しました。



←この大会は、日本人と韓国人が両国の文化や経験について相手国の言語で率直にスピーチを交わすことによって、相互理解や友情を深めることを目的として開催されており、今回で14回目を迎えました。

大会出場に際しては、まず、申請書と、スピーチ内容を日本語、韓国語の両方で作成した原稿（3分程度の内容）、また、発表の際の言語での録音データ（1分程度）を事前に提出し、その予選審査を突破した人達が、本選である大会に出場できるという流れです。

韓国語の上達のためにと、職場の方に勧められ、本大会へ申請することになりました。今回は申請者が100名を越えていたようですが、職場の皆さんのご協力のおかげで、予選を突破することができ、本選に出場することができました。本選出場者は、日本人の方が私を含めて7名、韓国人の方が11名の計18名で、私は5番目にスピーチをしました。そして・・・



↑ 私は幸運にも、観客のアンケート投票で1位だった人に贈られる「人気賞」を受賞することができました！（写真左）

※その他審査員による各賞があり、最優秀賞には韓国の高校生が選ばれました。

この日は外交通商課の皆さんも応援に駆けつけてくれました。（写真右）



↑最後に大会出場者・関係者の方々と記念撮影。

大会当日までは、毎日のように家の中や地下鉄の中で原稿を繰り返し読み、また、携帯電話に録音した音声データを聞きながら練習をしました。外交通商課の皆さんも、お忙しい中、私の発表の練習に付き合ってくれました。

大会本番では、多くの方々に前にとっても緊張しましたが、練習をした成果を出し切ることができ、入賞という結果を得ることができたことは、私の韓国生活の中でも特に思い出に残る、一生忘れられない思い出となりました。

韓国に関心のある方、また、現在韓国語を学んでいる方は、ぜひ来年度の大会へ参加することをお勧めします。語学力の向上はもちろんのこと、自身にとってとても貴重な思い出が

できますよ！

2019年2月

2/27・2/28 第4回目のクレアソウルセミナーにおいて、2018年平昌(ピョンチャン)冬季オリンピック・パラリンピックの舞台になった江原道(カンウォンド)の江陵市(カンヌン)のオリンピック関連施設を視察する機会がありましたので、ご紹介したいと思います。
※クレアおよびクレアソウルセミナーについての概要は、前回のレポートに詳しく記載していますので、こちらを参考にしてください。↓

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/k2w/cnt/f90006/documents/h30korea04.pdf>



↑ここは江陵駅です。駅前の広場には、平昌冬季五輪のマスコットキャラクターが展示されています。

↑駅構内では、五輪開催から一周年を記念する展示がありました。



↑江陵グリーン都市体験センターにて、江陵市の担当者の方から市の概要や観光政策についての説明を受けました。(写真左・中央)また、隣接する江陵オリンピックミュージアム(写真右)には、平昌冬季五輪に関する資料・記念物等を展示しています。

江陵オリンピックミュージアム内にて



↑実際に使用された表彰台(写真左)や、本物と同じメダル(写真中央)など、数多くの展示物があります。なお、右の写真に写っているのは、フィギュアスケートの選手として大活躍した韓国のキム・ヨナ選手のサイン入りのシューズです！

次に、江陵オリンピックパークを視察しました。

江陵オリンピックパークは2018平昌冬季オリンピック氷上種目競技の大部分が開催された場所です。江陵総合運動場、江陵文化芸術館、江陵カーリングセンターをはじめ新設の競技場である江陵アイスアリーナ、江陵ホッケーセンター、江陵スピードスケーティング競技場などがあります。



↑江陵カーリングセンターです。2018平昌冬季オリンピックでカーリング日本女子代表が銅メダルを獲得して話題となった場所です。ここではカーリングの体験ができます。この日はセミナー参加者達で2チームに分かれて、カーリングの試合を体験しました。



↑江陵アイスアリーナです。2018平昌冬季オリンピックでフィギュアスケートの男子シングルで日本の羽生結弦選手が金メダル、同じく日本の宇野昌磨選手が銀メダルを獲得して大変盛り上がった舞台です。

↑※ちょうどこの日は2回目となる米朝首脳会談が開催された日でした。

江陵市の担当者のお話によると、オリンピックの影響で、ソウルから江陵まで約2時間で行くことができる高速鉄道KTXが開通したことにより、交通の便が良くなった分、日帰りの観光客が増え、宿泊する観光客が減っているという問題が生じているようです。そこで、現在は、海外からの観光客を増やすことに力を入れているそうです。宿泊する観光客の獲得が課題だという点は、東京都を主な目的地とする観光客からの日帰り観光が多い神奈川県とも共通する課題だと感じました。

また、多額の費用を投入して建設したオリンピック会場施設についても、大会終了後、いかに再活用するかという問題が大きな課題となっているようです。

いよいよ、日本でも、東京オリンピック・パラリンピックの開催が来年に迫っています。神奈川県でも、江ノ島でセーリング競技が開催されることが決まっています。大会を無事成

功させるだけでなく、その後の地域の活性化にも活かしていく努力が大切だと感じました。

韓国の行事について

韓国独特の文化を感じることができる行事についてご紹介いたします。

①トルチャンチ

京畿道庁OBの方から、お孫さんの1歳の誕生日パーティーがあるということで、招待をされました。

韓国では、「トルチャンチ」といって、赤ちゃんが初めての誕生日（満1歳）を迎える日を盛大に祝う風習があります。「トル」とは赤ちゃんが生まれた日から1年になる日のことで、「チャンチ」は「宴、パーティー」という意味だそうです。韓国ではこの日になると、親戚を始め、友人や知人も招待してトルチャンチを開きます。昔は主に自宅で行っていたそうですが、最近はレストラン等を貸し切って行うことが多いようです。



←トルチャンチで一番盛り上がるのが「トルチャビ」というイベントです。これは、赤ちゃんの目の前に、聴診器、小槌、マイク、鉛筆、紙幣などを並べ、何を先に手にとるかで、赤ちゃんが将来何になるかを占うものです。例えば、聴診器であれば医者、小槌であれば裁判官、マイクであればアナウンサー、鉛筆であれば小説家、紙幣であればお金持ちといった具合です。

トルチャンチは、乳幼児の死亡率が高かった昔、愛する子どもが無事に成長することを祈り、初めての誕生日を迎えたことを祝っていたことが由来で、その風習が今でも続いているそうです。家族を大切にす韓国の文化を感じることができます。

②結婚式

京畿道庁の職員の方の結婚式に出席する機会がありましたので、韓国の結婚式についても触れたいと思います。

韓国では、結婚式専用の式場（ウェディングホール）を借りて行うことが一般的のようです。日本ではホテルの会場を借りて行うことが多いですが、韓国ではそういう結婚式をするのは一部の富裕層の方だけとのこと。



ご祝儀を入れる封筒は会場の入口付近に用意されていて、その場で現金を封筒に入れる形となっています。ご祝儀の金額についても、日本では、家族・親戚などの間柄を除けば、3万円程度が相場ですが、一方、韓国の結婚式でのご祝儀は、50,000ウォン（※約5千円）程度が一般的だそうです。日本の結婚式と違い、食事は式場内の食堂でのバイキング形式が一般的で、また引き出物の習慣もないそうです。



また、結婚式の時間についても、日本に比べてとても短いことが特徴です。新郎・新婦の入場から、お祝いの演奏等を挟み、祭壇前での挨拶、お互いの両親への挨拶、そして退場と、ここまでで、なんと約30分ほどで終了してしまいます！

最後に、新郎・新婦が再入場して、お互いの親族や友人、知人が集まって記念写真を撮影しますが、その時間を含めても、全体で一時間も経たないほどで終了します。終了後、出席者達は、ホール内の食堂へ移動し、食事をして後は自由解散となります。

ちなみに、最後に花嫁が行うブーケスについては、日本では受け取った人が次に結婚ができると言われていますが、韓国ではブーケを受け取ってしまうと、その半年以内に結婚をしないと、それから3年間は結婚ができないというジンクスがあるそうです！そのため、韓国の結婚式では事前に結婚予定のある方を探し、ブーケを受け取ってもらうようにしているそうです。

終わりに ～新時代における神奈川県と京畿道の交流に向けて～

思えば、私が韓国にいたこの一年間は、南北首脳会談や米朝首脳会談が開催され、朝鮮半島情勢が大きく動いた激動の年でもありました。そのような時に、交流職員として韓国へ派遣されたことは、自身にとって、とても記憶に残る貴重な経験となりました。

2019年となり、まもなく平成という時代が終わりを迎え、新しい時代になろうとしています。平成の始まりとほぼ同時期に始まった、神奈川県と京畿道の友好交流の歴史もいよいよ新時代へ突入することになります。そして、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、神奈川県と京畿道が友好提携を締結してから30周年という節目を迎えます。

日本と韓国、国と国の間ではいろいろな課題もありますが、そうした中で地方自治体間における交流こそが両国の良好な関係を築いていくうえでとても重要だと思います。

平成の最後に、京畿道への交流職員として韓国での派遣生活を経験することができた立場として、神奈川県と京畿道の友好交流、そして日本と韓国の友好関係が新時代に向かってさらに発展をしていくために、今後とも微力ながら貢献していきたいと思っています。